

TOUR DE HOKKAIDO 2006 NEWS

5th.Stage 2006年9月18日発行

区間個人順位

順位	名前	チーム	タイム
1	マリウス・ヴィズィアック	NIPPO	38:39
2	西谷 泰治	愛三工業	+0:00
3	水谷 壮宏	VANG	+0:00
4	ウェズリー・サルツバーガー	オーストラリア	+0:00
5	キム チョルス	韓国	+0:00
6	キム ドンヤン	韓国	+0:00

個人ポイント賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	マリウス・ヴィズィアック	NIPPO	94
2	ウェズリー・サルツバーガー	オーストラリア	81
3	西谷 泰治	愛三工業	77
4	鈴木 真理	ミヤタ・スバル	72
5	宮沢 崇史	VANG	57
6	ジェイコブ・アーカー	カナダ	40

団体総合順位

順位	チーム名	タイム
1	スキル・シマノ	53:43:08
2	カナダ	+3:47
3	ミヤタ・スバル	+5:57
4	VANG	+8:16
5	愛三工業	+9:56
6	オーストラリア	+10:41
7	NIPPO	+15:03
8	マトリックス	+19:59
9	ドイツ	+20:45
10	チャイニーズタイペイ	+21:40
11	北海道地域選抜	+27:15
12	プリチストン・アンカー	+32:07
13	韓国	+33:53
14	中央大学	+33:55
15	日本大学	+34:13

個人総合時間順位

順位	名前	チーム	タイム
1	西谷 泰治	愛三工業	17:53:29
2	鈴木 真理	ミヤタ・スバル	+0:16
3	ダニエル・マチューネル	オーストラリア	+0:25
4	ジェイコブ・アーカー	カナダ	+0:28
5	土井 雪広	スキル・シマノ	+0:30
6	ウェズリー・サルツバーガー	オーストラリア	+0:32

個人山岳賞順位

順位	名前	チーム	ポイント
1	土井 雪広	スキル・シマノ	26
2	辻 善光	立命館大学	19
3	マーシュ・クーパー	カナダ	12
4	中島 康晴	鹿屋体育大学	10
5	普久 原奨	プリチストン・アンカー	9
6	エリック・ウォルバグ	カナダ	8

5th.Stage ヴィズィアック (NIPPO) 区間2連勝。西谷 (愛三工業) が初の個人総合時間優勝



ステージ2 連勝を果たしたマリウス・ヴィズィアック (NIPPO)。後ろでは個人総合優勝を果たした西谷泰治 (愛三工業) も両手を挙げる

待ちに待った札幌大通公園はあいにくの雨となってしまったが、沿道には多くの観客が詰めかけた。

4 周目、最初のホットスポットはマリウス・ヴィズィアック (NIPPO)、ウェズリー・サルツバーガー (オーストラリア)、綾部勇成 (愛三工業) の順で獲得。

8 周目のホットスポットは、ヴィズィアック、西谷泰治 (愛三工業)、鈴木真



危なげない走り、ボーナスタイムを稼いだ西谷泰治 (愛三工業)。ステージでも2位に入り、力をみせつけた個人総合優勝となった

理 (ミヤタ・スバル) の順。この時点でヴィズィアックはポイント賞暫定1位に。

12 周目のホットスポットは、ヴィズィアック、サルツバーガー、西谷。3つのホットスポットが終わり、リーダージャージの西谷と2位鈴木とのタイム差は8秒となった。

16 周目、最後のホットスポットは、山本雅道 (スキル・シマノ)、西谷、ヴィ



スタート前に水谷壮宏 (VANG) の引退セレモニーが行われた。水谷は、スプリントでステージ3位を獲得し、最後のレースで表彰台に上がった

ズィアックの順。フィニッシュを前に、西谷と鈴木との差は10秒となり、西谷の個人総合優勝はほぼ確実となった。

そしてフィニッシュ。ステージ優勝はヴィズィアックが獲得。西谷は2位に入り、初の個人総合優勝を決めた。

また、地元北海道地域選抜の阿部嵩之がステージ6位に入り、U23 区間賞を獲得した。

Next Year 新時代を感じさせる区切りの大会となった第20回大会

久しぶりの日本人選手による個人総合優勝に沸いた第20回大会。

今年の優勝者、西谷泰治 (愛三工業) は第2ステージで終盤まで先頭を引きながら最後に差されるといふ悔しい負け方をしたが、翌日の第3ステージで同じように先頭交代をしながら勝負を決めてみせた。マラカイト・ジャージにふさわしい堂々たる優勝だ。西谷はまだ25歳とこれから十分成長が期待できる。今回の勝利に満足することなく、さらに精進を続け二度三度と総合優勝を狙ってもらいたい。

西谷のみならず、学生をはじめとする若手の活躍が目立った今大会は、自転車ロードレースの発展を予感させるうれし

い大会でもあった。スキル・シマノの土井雪広、鹿屋体育大学の中島康晴、立命館大学の辻善光、日本大学の太田伸也、法政大学の太田寛ら、多くの若い選手が大会を盛り上げてくれた。彼らには、今回の反省をしっかりと、さらに強くなる努力を続けてほしい。

ツール・ド・北海道は険しい山がありながら、ゴールは平坦というパターンがしばらくは続くだろう。まさに総合力が試されているのだ。来年の大会までには各選手とも苦手な分野を克服して、さらに白熱したレースを見せてもらいたい。

このニュースは文：別府始、森高多美子、写真：大前仁でお伝えしました。ありがとうございました！



U23 区間賞を獲得したのは、北海道地域選抜の阿部嵩之で、ステージ6位に入る活躍をみせた。大通公園の記念すべき表彰台に地元の選手があがった